

- (13) 大曾根章介『日本漢文学論集』第二卷（汲古書院、一九九八年）「菅原道長―詩人と鴻儒―」四二頁。
- (14) 同右書。四八頁。
- (15) 江談抄研究会『類聚本系江談抄注解』（武蔵野書院、一九八三年）「四―11」一二三頁～一二五頁。
- (16) 菅野禮行『平安初期における日本漢詩の比較文學的研究』（大修館書店、一九八八年）第二章 菅原道真の詩における文學的特質の研究―「四 道真における「自詠」の詩の一考察」。
- (17) 同右書。五三二頁～五三三頁。
- (18) 拙稿「菅原道真研究―『菅家後集』全注釈（一）―」（熊本大学「国語国文学研究」第三六号）。
- (19) 注（18）四〇頁～四一頁。
- (20) 注（16）に同じ。
- (21) 注（18）四一頁 四二頁。
- (22) 注（16）五三三頁。
- (23) 波戸岡旭『宮廷詩人菅原道真―『菅家文章』『菅家後集』の世界―』（笠間書院二〇〇五年）  
四二四～四二五頁